



篆書日下部鳴鶴墓碑銘軸
呉昌碩筆
中華民国11年(1922) 79歳
京都国立博物館蔵

日本の友の
死を悼み



「村鉞」朱文方印 呉昌碩刻
清~中華民国時代・19~20世紀
台東区立書道博物館蔵

中村不折(鉞太郎)
の印も
彫りました



呉昌碩尺牘集
(沈石友に宛てた手紙)
呉昌碩筆
清~中華民国時代・19~20世紀
ふくやま書道美術館蔵

大親友と
手紙のやりとり



挫折と栄光
まろ〜ん! 呉昌碩ワールド!



生誕180年記念 ごしょうせき 呉昌碩の世界

清時代の末期から中華民国の初期に活躍した呉昌碩。

その生誕180年を記念して、現在書道博物館で特別展を開催しています。

今回の特別展は、東京国立博物館との連携企画であるとともに、朝倉彫塑館、兵庫県立美術館、ふくやま書道美術館(広島県福山市)とも連携しており、日本の東西で「呉昌碩の世界」を繰り広げます。

在世中から現代にいたるまで、内外において高い評価を博した呉昌碩作品の魅力と、かたちを超えた呉昌碩オーラを存分にご堪能ください。



石鼓文-後勁本-
戦国時代・前5~前4世紀
三井記念美術館蔵

私のパイブル
石鼓文



この作品は臨書と言って、石鼓文を手本にして書き写したものです



臨石鼓文四屏 呉昌碩筆
中華民国7年(1918) 75歳
兵庫県立美術館蔵
(梅舒適コレクション)



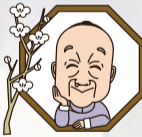
呉昌碩(1844~1927)ってどんな人?

清時代の末期から中華民国の初期に活躍した文人で、詩・書・画・印の4芸に優れており、日本でも多くの愛好者がいます。

幼い頃から勉学にいそしんだ呉昌碩でしたが、太平天国の乱によって凄惨な避難生活を送りました。乱の収束後は師友に恵まれ、古代文字の研究に励みます。中でも石鼓文(*)は晩年まで臨書し続けました。呉昌碩の作風は多くの人々を魅了し、後年、上海芸術界の中心人物となりました。また、日本人との交流も深く、日本に現存する作品からその一端を窺うことができます。

(*) 紀元前5世紀頃の春秋戦国時代のもので、石に彫られた資料としては現存する最古のもの。

梅は私の
十八番です



紅梅図軸 呉昌碩筆
中華民国6年(1917) 74歳
兵庫県立美術館蔵
(梅舒適コレクション)

書道博物館

- 所在地 根岸2-10-4
- 開館時間 9:30 ~ 16:30 (入館は16:00まで)
- 休館日 月曜日(祝休日の場合は翌日)
- 入館料 一般500円、小中高生250円
- 障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者福祉手帳、特定疾患医療受給者証をお持ちの方とその介護者は無料
- 毎週土曜日は区内在住・在学の小・中学生とその引率者は無料
- 問合せ 書道博物館 TEL 03-3872-2645



詳しくはこちら

生誕180年記念

呉昌碩の世界-その魅力と受容-

- 期間 前期2月12日(月・祝)まで
後期2月14日(水)~3月17日(日)
- ※上記以外にも展示替えあり



区公式HP▶



区公式SNSの一覧▶

